

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800075
法人名	医療法人 吉祥会
事業所名	グループホーム 奏庵
所在地	鹿児島県出水市平和町236番地 (電話) 0996-62-8186
自己評価作成日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のグループホームであり、老人保健施設と同敷地内にあり、緊急時の対応、医療面で安心感を得ている。職員の教育体制も整っており毎月の施設内研修、クレーム・接遇委員会、リスクマネジメント委員会など様々な委員会を立ち上げ、毎月の会議で事例の検討や予防策、集計などを話し合い全スタッフが実践出来るように周知徹底を行っている。開設6年目に入り、職員の専門的意識も高く、介護福祉士の資格取得を70%近く取得しており、毎年資格取得に向けて取り組んでいる。また、研修・勉強会を通して、ケアの質の向上に取り組んでおり、毎年管理者が面接を行い、年間の目標・評価を明確にして意識を高めている。入居者にとっては、安心してホームでの生活を過ごして頂けるように、寄り添いと声掛けを行うと共に、季節毎の行事を大切にして、昔ながらの巻き寿司やそば打ちなど一緒に参加して頂く事で、喜びの声を頂いており、ご家族からの安心や感謝の言葉を頂いている。

- ・当事業所は2ユニットのグループホームである。医療法人が母体で、介護老人保健施設が併設され、重度化や看取りケア、緊急時の対応など、家族にとって医療面での安心感がある。
- ・法人全体で各委員会を設置し、定期的に会議や勉強会を開催し、ケアの向上について研鑽、教育体制も整っている。資格取得に向けての取り組みもされている。
- ・地域行事の文化祭に作品等を出品したり、夏祭り等への参加、認知症についての地域の集会や婦人会へ出向いて、講師を務めたりして地域と交流を図っている。
- ・毎年、職員全員で品質目標を掲げ、目標達成に向けて活発な意見を出し合い、利用者の自立のために取り組んでいる。
- ・季節ごとの行事を大切にして、行事食や赤飯・バイキング等、年間を通して楽しめるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は朝礼時に唱和し、理念に向けての目標を毎年設定し、実践している	法人全体の理念に基いて毎年、事業所の年間目標を掲げ、達成度の評価をしている。理念は玄関や施設内への掲示と朝礼時の唱和で共有し、ミーティングや会議等で確認と振り返りを行い、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みのお店での買い物・行事への参加等地域の一員として暮らせるように支援している	地域行事への積極的な参加、法人行事への地域住民の参加や地域サロンとして施設を開放している。学校の職場体験学習や演芸ボランティアの受け入れ、キャラバンメイト活動、散歩時のあいさつや会話、家族や地域住民からの差し入れ等、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症サポーター養成講座・夏祭り等の開催で地域の方と一緒に過ごせる時間を多くとることで地域の方の理解を増やしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へ参加して下さる方も徐々に増え、利用者状況や、ヒヤリハット、行事、勉強会等の報告をし、皆さんから意見をいただいている	定期的に運営推進会議が行われている。活動報告や外部評価結果報告・事故・ヒヤリハット報告等を行い、意見やアドバイスを得てケアに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加・事故があった場合などの報告など協力体制は取れている	定期的に行政へ出向き、書類関係や事故報告・広報誌を届ける等、日頃から連携を取っている。運営推進会議への参加、キャラバンメイト活動、認知症サポーター養成講座など連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に対しては定期的に勉強会を行い、身体拘束をしないケアは当たり前のことだと全スタッフが理解している	身体拘束委員会で毎月研修会や勉強会を行い、ヒヤリハット等を参考に事例を出し身体拘束をしないように取り組んでいる。指針・マニュアルがあり、身体拘束ゼロを実践している。禁句マナー集を使用して、言葉による拘束を含め、玄関の施錠は昼間は開放し自由に出入り可能となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を隣接すると老健と一緒に立ち上げ、言葉による拘束や虐待など無いように常に注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在利用している方はいないが、管理者を中心に成年後見制度等の勉強会に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分に時間を取って納得できるまで説明し、必要に応じて繰り返し説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族や利用者から出た言葉（不満やお褒め）は記録し、対策が必要な場合は委員会や施設長とも話し合っている	利用者からは日常会話や表情等から思いを汲み取るよう心がけている。家族の面会時には必ずお茶を出し、話しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見や要望は申し送りノートや気づきノート・褒めノートに記録し、情報を共有しケアにつなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎年の目標も全員で考え、全スタッフが意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている	ミーティングや記録の時間等に、意見や提案を出し合う機会がある。全員で考えた品質目標があり、年2回の自己評価や管理者評価を含めた個人面談を実施している。勤務年数の長い職員が多く、意見や提案を出し合い運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来るだけ残業しないよう業務体制、年1度の昇給・年二回の賞与・資格手当・有給等職場の環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加の機会、吸引痰の資格取得への応援など職員のスキルアップを支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会への参加。RUN伴参加など同業者との関係づくりや活動を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉に出して伝えることができない方が多いので、表情や動作など寄り添いながら観察しゆっくりと信頼関係が築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聴き現状の把握に努め不安の軽減を図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報の収集を出来るだけ多く、（本人・家族・ケアマネ・他施設等）集め本人の混乱をなるべく最小にして必要なケアが提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にご飯を食べることで、料理の感想を言い合ったり、洗濯物の整理など一緒に行うことで関係性を築いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年の敬老会はファッションショーをご家族の協力を得ながら行った		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来やすい雰囲気づくり、なじみの地域へのドライブなど支援している	地域行事へ積極的に参加したり、法人行事への地域住民の参加等で交流を図っている。家族の協力を得ながら行きつけの美容院や外食・墓参り等を実施している。友人や知人の面会も多くお茶を飲みながらの支援を行っている。自宅周辺や自宅訪問へのドライブを行う等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性や関係性を観察しながら、必要に応じて間に入り、良好な関係が作れるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し入院された場合はお見舞いに行き、本人、ご家族との関係性を大切にしている。また、病院のソーシャルワーカーとも連携を取りながら、希望時は早期に戻るようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくりと時間をかけ本人との信頼関係を築きながら、意向の把握に努めている。	入居時のアセスメントや家族からの情報を基に日常会話・表情からくみ取るように心がけている。気づきメモや申し送りノートで情報を共有しケアにつなげている。利用者のそばにいても察知することができるように心がけ、感情の変化も見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や環境など情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見る・聴く・話す等個別に分けたアセスメントを行いスタッフ全員で協議しながら状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向・主治医の見解・スタッフ等の意見などカンファレンスを行いケアプランを作成している	本人や家族・主治医の意見を聞き、新規ケアプランは1ヶ月単位で作成。気づきノートや申し送りノートの情報を基に毎月のモニタリング、3ヶ月毎の評価を行っている。状況変化時は随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ノートに日々の様子を毎日記録している。また、診察記録や排便管理や食事の摂取量など記録も行いケアプランの見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自由な外出や外泊、希望に応じた送迎などその時々本人やご家族に必要なサービスが提供できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	鶴見学や文化祭見学、桜祭りへの参加など地域の中に出かけ楽しみの時間を過ごしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設長が医師であり定期的に利用者と顔を合わせ信頼関係はできている。また、家族の希望があればいつでも面談もおこなっている	契約時に希望通りのかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、24時間医療連携体制が取れている。専門医や他科受診については家族の協力を得ながら、必要時には職員が対応し、家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と連携を取りながら24時間オンコールで対応できている。また、状態の変化等すぐに相談でき体制は整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のソーシャルワーカー等とも連携を取りながら居場所が確保できるように支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にリスクや終末期に対する考え方を説明し、ホームのできる事、出来ないことなどの説明し理解を得ている。終末期に対しても家族や病院などと連携し本人、家族の希望に沿ったケアができるようにしている	重度化や終末期の指針があり、最初に説明をし同意を得ている。終末期を迎えるに当たり家族の気持が変化するので調整しながら対応している。法人でターミナルケア委員会が設置され、委員会が中心となり外部研修・内部研修で意識の統一を図っている。ご家族の希望で重度化した場合には系列の老人保健施設での対応がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や看取りについての勉強会を定期的実践している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期の避難訓練を実施 また、隣接する老健等との緊急時の連携、職員間の連絡網の徹底を行っている	年2回、昼夜想定での消防避難訓練や自主訓練を行っている。スプリンクラーや緊急通報連絡システム、自治会の無線がある。 年1回、法人合同での徘徊搜索訓練を実施し、地域の見守り体制が整っている。災害用の水やインスタント食品・カセットボンベ等を備蓄し、台風が近づいたら多めに購入している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞こえるようにトイレへの声かけをしない、名字で呼ぶ、丁寧な言葉かけなど尊敬の心を持った声かけを心がけている	マニュアルがあり定期的に勉強会を開催し意識の統一を図っている。排泄介助や入浴介助時には特にプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。丁寧な話し方や会話等を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を何よりも大切にしてケアを実践するように思いを言葉に出せない方でも、表情から読み取れるようにスタッフ間で情報の共有をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の業務の流れは緩やかに決め利用者のペースやその日の流れによって行えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時はその方と一緒に服を選んだり、散髪援助などおしゃれを楽しめるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に応じた食事の形態。希望を取り入れたメニュー作り、いただきますの声かけの当番制など職員と一緒に食事が楽しめるようにしている	利用者全員が食事当番制で役割を担ったり、個々の力量に応じて片づけやテーブル拭き等を行っている。嗜好調査やアセスメントにより食事形態を工夫したり、行事食や鍋パーティー・バイキング・外食を計画し食事が楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えたメニュー、食事量のチェック、定期的な体重測定を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけや支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に応じた下着・パットの使用、個別のトイレ誘導や声かけを行っている	食事後や表情・しぐさからトイレ誘導の声かけを行っている。さりげない声かけでプライバシーの確保をしながら、自立に向けた排泄支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認・繊維質の多いメニューの工夫・食事量のチェック、必要に応じての下剤の服用で便秘防止に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日、今日はお風呂はどうしますかと尋ね本人の意思で入浴を決定してもらうようにしている	週2～4回、日曜日以外は毎日でも入浴が可能で、希望や状況に応じて対応している。楽しく入浴ができるように声かけや冗談を言いながら気分を和らげている。入浴を嫌がる利用者には、時間を置いたり職員を替えたり、無理強いはしないようにしている。清拭や足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の一日の日課を把握し、無理のない程度に日中は活動的に過ごしていただけるように支援することを心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを個別に分け、確認をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事当番・洗濯物の仕分け・調理・イベント時の挨拶などその方に応じて役割を担っていただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の文化祭見学では抹茶をご馳走になったり、鶴見学や桜見学、かかし祭り見学など季節感を感じながら外出を行っている	天気の良い日はホームの菜園や近くの公園へ散歩したり庭での茶話会を行っている。外食や買い物・花見・田植え・稲刈りの見物等、外出の機会が多い。歩行困難な利用者も一緒に外出している。家族の協力も得ながら地域行事や外食・外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は少なくなってきたが必要に応じて事務所で預かったり、都度、家族と連絡を取りながら、買い物や趣味等に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話など必要に応じて会話のサポートを行い、毎月近況を報告している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房の調整や換気、掃除や片付けなど気を配り快適に過ごせるように配慮している	共用空間は明るくゆったりとして、換気や採光に配慮し、エアコンや加湿器が設置されている。広い廊下で手すりがあり、掃除が行き届いている。季節の花や飾りつけがされ、ソファでゆっくりテレビを見ながらくつろげるスペースもあり、居心地よい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋も十分な広さがあり、一日居間で過ごす方や部屋で過ごす方など思い思いに一日を過ごされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品や写真等展示していただくスペースは十分にあり家族にも持参していただくように声かけしている	居室にはベッドやエアコン・洗面台・クローゼットが設置され、それぞれの利用者が家族の写真や位牌・自分の作品・テレビ・花等を持ち込んで、居心地良く過ごせるような環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	照明・採光・換気・手すり・バリアフリー等安全な環境を提供している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない